



建物外観（撮影：エスエス）

建築概要

建設地：熊本県天草市東浜町 8-1
 建築主：天草市
 設計：日建設計
 施工：安藤ハザマ・吉永・
 中村特定建設工事共同企業体
 建築面積：3,741.26m²
 延床面積：9,728.38m²
 階数：地上 4 階、地下なし
 高さ：16.95m
 構造種別：RC 造
 （一部プレストレストコンクリート造、木造）

選評

発注者である天草市が提示した、ユニバーサルデザイン、高い機能性、高い安全性、周辺環境との調和、及び、市民に親しまれるデザインという多様な要望を、低層建築と免震構造の採用により見事に実現した。免震構造は基礎免震として滑り支承、鉛プラグ入り積層ゴム、天然ゴム系積層ゴムを効果的に配置することにより、熊本地震の経験に基づく強い設計用地震動を採用しているにも拘らず、上部構造の応答加速度を 120gal 程に抑え、フラットスラブや細径の RC 柱等による架構を採用することが可能になった。その結果、建物高さを抑え、柱の少ない広々とした空間が実現できている。インテリアは、中央部に設けた吹き抜けとトップサイドライトによる外光の導入や、フラットスラブの打ち放し天井と照明の効果的な活用により、建物中心部でも外壁面から深く内部に入っていることを感じさせない明るい空間を実現させている。最上階では地元の木材を多く採用し、議場の天井には地震力から解放された複雑な軸組のデザインを可能にした。これらの成果は、この建築を優れたデザインまとめ上げている事のみならず、今後の地方建築の方向性としてある解答を出している点を評価し、作品賞に選定した。（東野 雅彦）

建築主：天草市
 設計者：株式会社日建設計
 施工者：株式会社安藤・間
 馬場昭治
 長瀬悟、宇田川貴章、刀田健史
 若林和之

免震・制振化した経緯及び企画設計等

「人にやさしく、合理的な庁舎」を主なコンセプトとして、ユニバーサルな空間を機能的に構築しながら、市の防災拠点として高い耐震性能を経済的に確保する必要があった。これら課題に対し、隣接していた既存棟を避け、取りうる最大の床を確保した「できるだけ広く、低い庁舎」としつつ基礎免震構造を採用し、建築計画と整合する外周片持ち架構による免震部材への軸力集約などを行い、免震効果を高めた市庁舎を実現した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

低層 RC 造の免震構造として、上部架構の剛性を耐震壁により効率的に確保しつつ、すべり支承を数多く配置して長周期化を図り、片持ち架構により軸力を集約した免震システムとすることで、大地震時の床応答加速度で 120gal 程度以下という高い免震性能を達成した。サイト波には、実施設計中に発生した熊本地震の知見を踏まえた地震動を採用し、地域性に配慮したさらなる安全性を確保できている。

建物にはフラットスラブ構造を採用して高さを抑え、内部の執務エリアとその外側に設けたアウトスペース（個室、縦動線、水回り）の境界部に集中して耐震壁を設けることで、内部柱を鉛直力のみを支持する細柱（400 角 PCa）として使いやすい執務室としている。屋根は 4m 規格長さの小径製材（ひのき 105 角）を用いた重ね梁で 8～9m スパンの木屋根を構築したほか、仕上げにもいたるところで天草産材を使用し、市民に親しみやすい庁舎を実現した。



上：1 階内観、下：議場内観（撮影：太田拓実）